



営農NEWS



露地ブドウ栽培でのべと病、灰色かび病、褐斑病、 晩腐病などの防除を励行してください

例年、6 月に入ると関東地方も梅雨入りします。平年では 6 月 8 日頃ですが、昨年は 3 日早く 6 月 5 日頃となりました。

5 月 25 日発表の気象 1 か月予報によりますと、「期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多く、期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう」と予想しています。例年、梅雨に入ると、降雨や多湿の日が続きますので、ブドウのべと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病などの感染や発病の好適環境になって、発生が多くなる傾向にあります。

このため、今後とも、ブドウ園における観察を丁寧に行い、参考防除例に基づく防除を励行するとともに、発生を確認したら必要に応じて追加防除を実施してください。

特に近年は、べと病や褐斑病が多発生する傾向にあり、早期落葉を生じて問題となる場合があります。また、晩腐病もこれから長い感染や発病期に入りますので、発病初期の防除徹底が特に重要になります。

<防除のポイント>

- 1 雨よけ栽培は、べと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病などの発病を抑制しますので、積極的に導入しましょう。また、晩腐病に対して傘かけや袋かけは、高い防除効果が認められています。
- 2 発生の早期発見に努め、発病葉や果房等は早急に除去し、園内に放置せず、土中に埋めるなど適切に処分します。
- 3 誘引などの管理作業により、園内の風通しや棚面の明るさを十分に保つように努めてください。
- 4 前年に多発した園では、平成 29 年版「露地巨峰病害虫参考防除例」や下記の防除薬剤を参考に、袋かけまでは散布間隔が 10 日以上空かないように薬剤散布に努めましょう。
- 5 薬剤散布の次回予定日に降雨が予想されている場合は、散布を延期せずに、降雨前に散布するよう努めてください。また、散布後に連続的な降雨や強い降雨があった場合は、状況に応じて散布間隔を短くすることも大切です。
- 6 薬剤散布量は 10 a あたり 250ℓを目安に、丁寧に散布してください。圃場の周辺部など薬液のかかりにくい場所には、手散布などにより補正散布を行ってください。
- 7 **薬剤によっては、幼果期以降の薬剤散布で、果粉溶脱や果実の汚れが生じる恐れがありますので、農薬のラベルに書かれた使用上の注意事項をよく確認してください。**

表 1 ブドウべと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病の主な防除薬剤（平成 29 年 5 月 29 日現在）

対 象 病 害				薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
べと病	灰色かび病	褐斑病	晩腐病			
○	○	○	○	オーソサイド水和剤 80	800 倍	収穫 45 日前まで / 2 回以内
○		○	○	ペンコゼブ水和剤	1,000 倍	収穫 45 日前まで / 2 回以内
○				ジマンダイセン水和剤		
	○			アリエッティ C 水和剤	400~800 倍	収穫 45 日前まで / 2 回以内
			○		800 倍	
					400~600 倍	
○				ランマンフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫 14 日前まで / 3 回以内
○				ベトファイター顆粒水和剤	2,000~3,000 倍	収穫 30 日前まで / 3 回以内
○				レーバスフロアブル	2,000~3,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
○				リドミルゴールド MZ	1,000 倍	収穫 45 日前まで / 2 回以内
○				ホライズンドライフロアブル	2,500~5,000 倍	収穫 21 日前まで / 3 回以内
		○	○		2,500 倍	
	○	○	○	オンリーワンフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
	○			フルピカフロアブル	2,000~3,000 倍	(開花期~幼果期) 収穫 30 日前まで / 2 回以内
	○		○	スイッチ顆粒水和剤	2,000~3,000 倍	収穫 30 日前まで / 2 回以内
	○			パスワード顆粒水和剤	1,000~1,500 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
	○	○		インダーフロアブル	8,000 倍	収穫 30 日前まで / 3 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040